

「白密陀花鳥箔絵盆」 保存修復報告

上江洲安亨*1 室瀬和美*2 鷺野谷一平*3

1. はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団首里城公園管理部所蔵「白密陀花鳥箔絵盆」の保存修復処置は、平成23年5月24日から平成24年3月30日まで、目白漆芸文化財研究所内の修復施設に於いて行われた。以下は修復内容を記録したものである。

なお監督職員を上江洲安亨とし、修復責任者を室瀬和美、修復担当者を鷺野谷一平とした。

2. 名 称

白密陀花鳥箔絵盆 5枚

3. 概 要

見込み部分を白密陀塗りとした円盆。中央の円枠内に、太湖石から伸びる椿樹に群れる二羽の鳥と植物を、絵替わりで配する。椿の花、葉は密陀絵、菊・鳥・枝・葉の輪郭・見込み縁の円は箔絵で表される。側面は朱漆に箔粉を蒔き透漆をかけた、いわゆる箔粉梨地とし、底は黒漆塗りとする。

(法量)	径	高	重 (cm/g)
[5061]	28.0	2.71	276
[5062]	28.0	2.75	270
[5063]	28.0	2.66	282
[5064]	28.0	2.80	276
[5065]	28.1	3.0	288

3. 現 状

経年による木地収縮が原因と思われる亀裂が、(個体差はあるが)見込みから罫にかけての表面全域に生じている。中でも最も大きな亀裂は木地接合部分である。密陀絵・箔絵で表された椿の葉の部分に塗膜剥離および剥落がある。見込みと罫の境目である稜線部は、使用により白密陀が擦れたため、異なる塗料が後補で塗布されたと思われる。黒漆塗りの底面は表ほどではないが、細かな亀裂が生じている。表裏共に、埃・汚れのため本来の艶を失っている。

4. 修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行うこととする。修復に際しては、十分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復工程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後に報告書を作成し提出する。

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課長補佐兼調査展示係長

*2 目白漆芸文化財研究所 代表取締役

*3 目白漆芸文化財研究所 修復技術者

5. 修復作業

・修復前撮影と調査

修復前に、修復後との比較ができるよう撮影を行った。また、素地、下地、加飾および現状の傷みを調査記録し、修復作業工程を確認した。

・養生とクリーニング

毛棒で全体の埃を払い、剥落の危険がある塗膜部分は、小片に切った雁皮紙を生麩糊で貼り、作業中の剥落を防止した(図1)。そして、水を僅かに含ませた柔らかい綿布および綿棒で塗膜汚れを取り除いた(図2)。

漆塗膜部の汚れで一部取りきれないものは、水とエタノールを混合した溶液を使用した。



図1 剥離塗膜を養生する

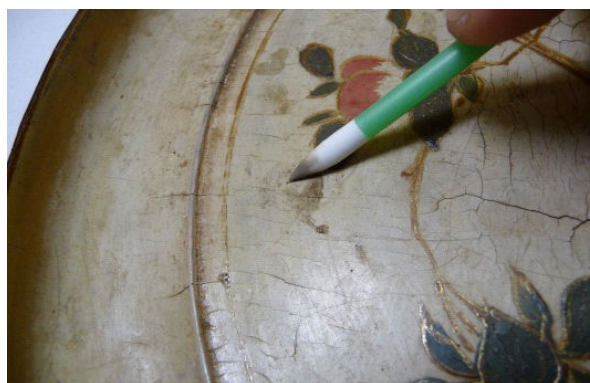


図2 クリーニングを行う

・塗膜押さえ

剥離、剥落塗膜の接着には膠を用い、木枠と竹ひごの弾力を利用した心張り法により圧着安定させた(図3)。



図3 心張り法により剥離・剥落塗膜を押さえる

・固め(桐油)

劣化した白密陀(地塗り)部分の塗膜強化と艶を回復するために、ボイルし乾燥促進のための一酸化鉛を添加した桐油を、綿棒と柔らかい綿布で極薄く塗膜表面に擦り込んだ(図4、5)。



図4 綿棒で桐油を塗布する



図5 桐油を綿布で擦り込む

・修復後撮影と報告書作成

修復後の撮影を行い、修復記録をまとめ、報告書を作成した。



修復前



修復後

6. 修復工程

- ①修復前撮影・記録
- ②養生・クリーニング
- ③塗膜押さえ
- ④固め(桐油)
- ⑤修復後撮影・報告書作成

